



人に学び・物に学び・自然に学ぶ

# 三室中だより

《学校教育目標》 令和7年度第3号 令和7年5月30日(金)発行  
自ら学ぶ生徒の育成 心豊かな生徒の育成 健康でたくましい生徒の育成

さいたま市立三室中学校  
〒336-0912 ほんば  
さいたま市緑区馬場1-38-2  
学校 048-874-2331  
FAX 048-810-1125  
相談室 048-876-1731  
<http://mimuro-j.saitama-city.ed.jp>

いじめのない学校へ

校長 中村 篤

新緑がまぶしく、さわやかな風が心地よい季節となりました。今年も5月4日(日)、祇園岩船竜神祭に地域の皆様からお誘いいただき、本校の生徒52名が参加しました。竜の担ぎ手として42名、ミニ縁日の手伝いとして10名、それぞれが役割を担いながら、地域の伝統を肌で感じる貴重な経験をしました。

「開かずの門」として知られる国昌寺の山門から氷川女體神社まで、2体の竜を担いで歩く姿は、まさに地域の誇りを背負う若者の姿そのもの。「疲れたけれど楽しかった」「来年もまた参加したい」といった声が多く聞かれ、地域の伝統行事が生徒たちの心にしっかり根づいていることを感じました。こうした経験は、教室では得られない学びであり、地域とともに生きる力を育む貴重な機会です。三室の地に住まう若い世代がこの伝統を受け継ぎ、未来へとつないでいってくれることを心から願っています。

さて、この時期は、児童生徒が内面にストレスを抱え込みやすく、理由もなく不安になったり気分が落ち込んだりすることが増える傾向があります。また、衝動的な行動が増え、いじめの認知件数も上昇する時期でもあります。そこで、すべての市立学校において、いじめを許さない学校づくりを目指した教育活動を推進するために、6月を「いじめ撲滅強化月間」と位置付けています。

脳科学者の中野信子氏によれば、大人でも子どもでも、集団では例外なく「いじめ」が起こり、完全に根絶することは難しいとされています。いじめにはさまざまな要因がありますが、誰かをいじめることで脳内に「快楽物質」と呼ばれるドーパミンが分泌され、時には理性のブレーキを超えてしまうことがあります。特に子どもたちの脳は未発達であるため、攻撃がエスカレートしやすい傾向があります。

しかし、いじめは決して許されるものではありません。防止のためには、①「いじめは絶対に許さない」という姿勢を訴え続けること、②心の教育を充実させ、理性のブレーキを強化することが重要だと考えます。本校では、主に次の取り組みを通じて、いじめ撲滅に向けた活動を推進してまいります。

1. 「心と生活のアンケート」や簡易調査を定期的の実施し、生徒の心の状態を把握し、早期対応を図る。
2. 道徳教育を充実させ、いじめ問題について考える機会を増やし、思いやりの心を育む。
3. 人間関係プログラムを導入し、生徒同士の良好な関係づくりやコミュニケーションスキルの向上を促す。
4. 校長講話を通じて、いじめの重大性を伝え、防止への意識を高める。
5. 生徒朝礼でいじめ防止のメッセージを発信し、生徒自身の意識向上を図る。

これらの取り組みを通じて、生徒が安心して学び、お互いを尊重し合える学校環境を実現していきます。もし何かご心配があれば、遠慮なく学校へご相談ください。学校と家庭が連携し、いじめのない、笑顔あふれる三室中学校を築いていきましょう。